

300年続く棚田 後世に

薬師集落住民 整備に奮闘

さつま町永野の薬師集落の住民が「薬師農地保全会」（上別府達会長、8人）を結成し約300年の歴史ある棚田や畑を後世に残そうと奮闘している。荒地だった一部の田畑に黄金色の稲穂やソバの花が揺れる中、初めての稲刈りバスツアーも開かれ、大勢の家族連れでにぎわった。



棚田を整備する農地保全会のメンバー

さつま町永野の薬師集落

初の稲刈りツアー 手応え さつま

金山で栄えた永野区協議会かごしまが主の山間部にある同集落は現在、22戸39人が暮らし、平均年齢72・3歳。祖先是南薩から移住したとされ、山中に見事な石積みみの棚田があるが多くの放棄された。地域おこしにつなげようと50～60代の農家が2月に結成、整備を進めている。

大小約200枚あるとみられる棚田を5年で約5・7畝整備する。所有者を探し許可を得てからカヤを払い整地。シカやイノシシ被害が大きいためすべで電気柵を設置する。これまで目標の5分の1が完了、米のほかイモやソバを植えている。

農業・農村体験バスツアーは「棚田等保全」と話し、（犬塚政志）